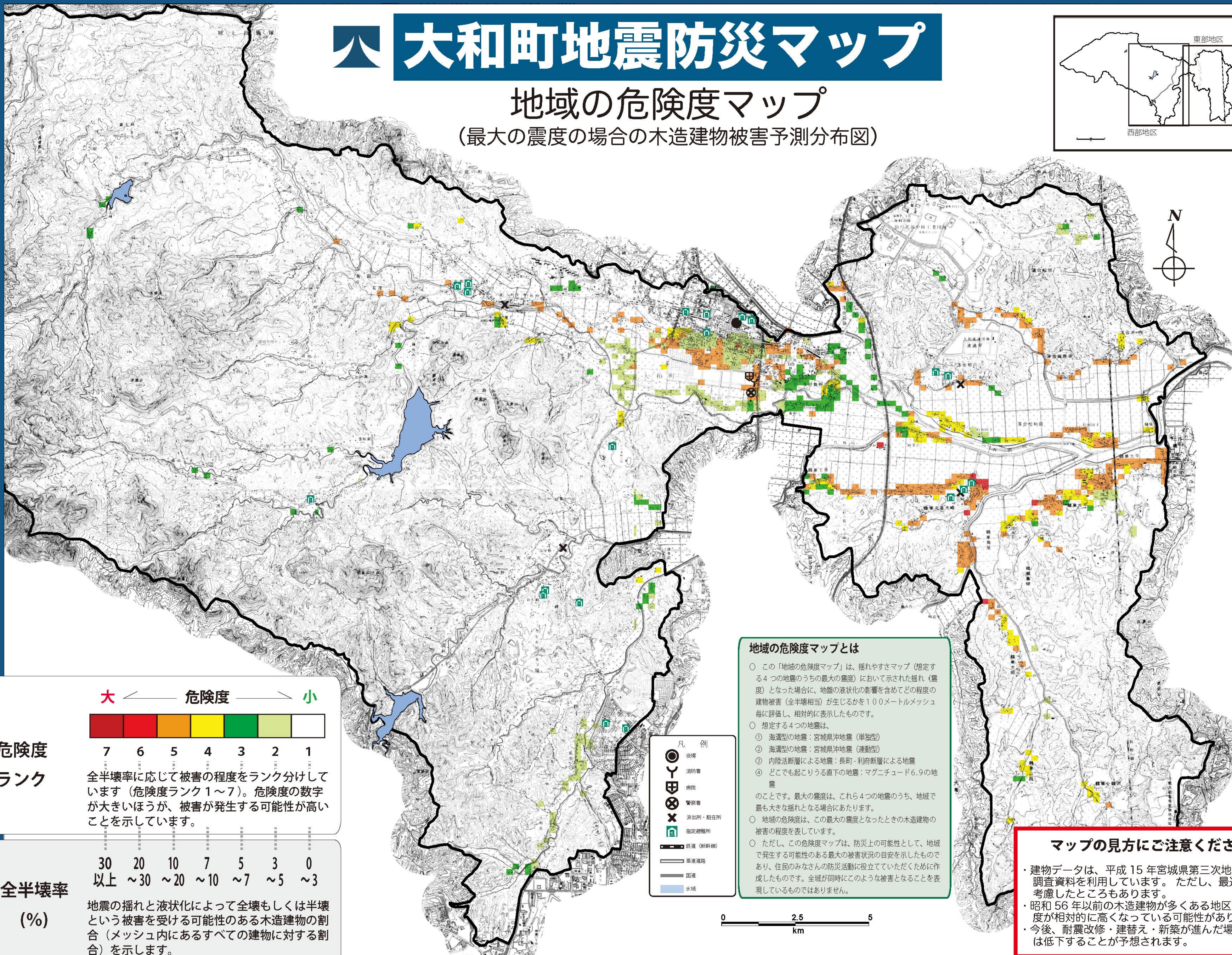
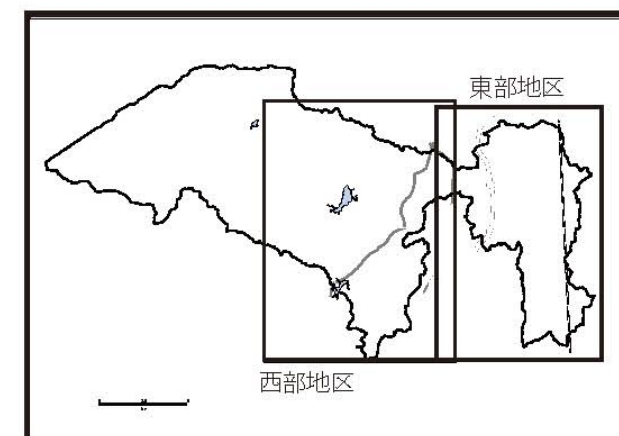




大和町地震防災マップ

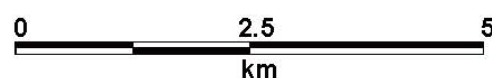
地域の危険度マップ

(最大の震度の場合の木造建物被害予測分布図)



地域の危険度マップとは

- この「地域の危険度マップ」は、揺れやすさマップ(想定する4つの地震のうち最大の震度)において示された揺れ(震度)となった場合に、地盤の液状化の影響を含めてどの程度の建物被害(全半壊相当)が生じるかを100メートルメッシュ毎に評価し、相対的に表示したものです。
- 想定する4つの地震は、
 - ① 海溝型の地震：宮城県沖地震(単独型)
 - ② 海溝型の地震：宮城県沖地震(連動型)
 - ③ 内陸活断層による地震：長町・利府断層による地震
 - ④ どこでも起こりうる直下の地震：マグニチュード6.9の地震のことです。最大の震度は、これら4つの地震のうち、地域で最も大きな揺れとなる場合にあたります。
- 地域の危険度は、この最大の震度となったときの木造建物の被害の程度を表しています。
- ただし、この危険度マップは、防災上の可能性として、地域で発生する可能性のある最大の被害状況の目安を示したものであり、住民のみさんの防災活動に役立てていただくために作成したものです。全域が同時にこのような被害となることを表現しているものではありません。

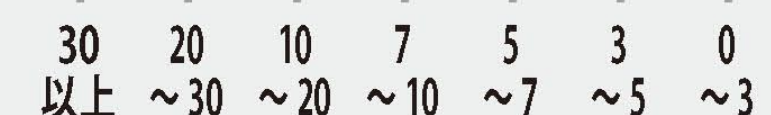


危険度 ランク



全半壊率に応じて被害の程度をランク分けしています(危険度ランク1～7)。危険度の数字が大きいほうが、被害が発生する可能性が高いことを示しています。

全半壊率 (%)



地震の揺れと液状化によって全壊もしくは半壊という被害を受ける可能性のある木造建物の割合(メッシュ内にあるすべての建物に対する割合)を示します。

マップの見方にご注意ください!!

- ・建物データは、平成15年宮城県第三次地震被害想定調査資料を利用しています。ただし、最近の利用を考慮したところもあります。
- ・昭和56年以前の木造建物が多くある地区では、危険度が相対的に高くなっている可能性があります。
- ・今後、耐震改修・建替え・新築が進んだ場合、危険度は低下することが予想されます。